

子どもによくみられるてんかん発作

意識を失ってけいれんが起こる発作 (強直間代発作)

硬直して倒れる 数秒～数十秒



発作の始まり(強直期)

- 突然手足がつっぱる
- 叫声
- 体を硬くする
- 呼吸が止まり、唇や顔が紫色に

手足をガクガク 数十秒



間代期

- 手足をガクガクと一定のリズムで曲げたり伸ばしたりする(けいれん)
- 顔やまぶたが一定のリズムでけいれん

もうろうとしたり眠ることも 30分～1時間



発作の終了後

- 呼吸が再開
- 口の中にたまった唾などを吐き出す

動作が急に止まり、ぼんやりする発作 (欠神発作)

ぼんやりして反応しない

数秒～30秒程度



- 突然表情がなくなり、ぼんやりした目つきに
- まぶたをパチパチ
- 動作が停止

全身や手足を一瞬ピクッとさせる発作 (ミオクローニー発作)

全身や手足を一瞬ピクッとさせる



- 食事中にスプーンが飛ぶ
- 本を読んでいると体がピクツとなり本を落とす

急に全身の力が抜ける発作 (脱力発作)

全身の力がガクッと抜ける・急に倒れる



- 突然力が抜ける
- 時には尻もちをつく

■ 気付かれにくい発作

運動機能の症状

- 手足や顔がつっぱる
 - ねじれる
 - 腕や足の一部がけいれんする
 - 体全体が片方に引かれる
 - 回転する
 - 手をたたく、もぞもぞ動かす
 - 口をモグモグさせる
 - 唇をなめる
- など

感覚器の症状

- 光が見える
 - 目がかすむ
 - 音・声などが聞こえる
 - 不快なおいがする
 - 体の一部がチクチクする
 - しびれる
- など

自律神経の症状

- 動悸がする
 - 呼吸数が変化する
 - 汗をかく
 - 皮膚が赤くなる
 - 顔が青くなる
 - 発熱する
 - 寒気がする
 - 頭痛や吐き気がする
- など

記憶や感情の症状

- 以前経験した記憶がよみがえる
 - 恐怖感や幸福感、不安が急に生じる
- など

■ 発作が起こりやすい状況や要素

発作が起こりやすい状況

- ほっとしたとき
 - ぼんやりしているとき
 - 寝入りばな
 - 寝起き直後
 - 睡眠中
- など

発作を起こしやすい要素

- お薬の飲み忘れ
 - ストレス
 - 疲労
 - 睡眠不足
- など

てんかん info

／ いっしょに知ろう ／

教職員向けのページはこちら



[てんかんはどんな病気?]

発作の対応

落ち着いて安全を確保して見守る

まわりの子どもたちを安心させる

さまざまな場面における発作の対応

倒れる発作の対応

- 安全な場所へ移動
- 危険なものを遠ざける
- 発作がおさまるまで見守る

プールでの発作の対応

- 鼻と口が水面から出るように頭部を支える
- 発作がおさまった後、水から引き上げる

食事時の発作の対応

- 口から食べものを出そうとしない
- やけどやけがに注意

無意味な身振りなどを繰り返す発作の対応

- 動きを止めようとする
- 声かけに対する反応をみる
- 発作がおさまるまで見守る
- 歩きまわる場合は付き添い、危険がある場合には回避できるように導く

発作が止まらない、発作が繰り返す場合の対応

- 5分以上続く発作の場合は、救急車を呼ぶ
- 主治医や保護者から発作が止まらない・繰り返す場合の対応について依頼がある場合は、依頼の通りに対応する

発作中にはしてはいけないこと

- 口の中にもものを入れない
- 体をゆすったり押さえつけたりしない
- 意識がぼんやりしているときに水や薬を飲ませない

こんなときには救急車を

- 発作が5分以上続く
- 意識の回復のないまま発作が続いて起こる
- 呼吸困難がみられる
- 意識の回復がみられない
- もうろう状態が長く続く
- けがをし出血がひどい

こんなときには病院を受診

- 医師の処置を必要とするようなけがをした
- 発作後に吐き気や頭痛、だるさなどが数時間以上続く

発作後の対応

発作後、子どもが眠った場合の対応

- 衣服をゆるめる
- 体・顔を横向きにする
- 汗をふく
- 無理に起こさず、静かに休ませる

もうろう状態の対応

- 危険なものを遠ざける
- 付き添う

発作がおさまった後の対応

- 普段と同じ状態に戻った場合は、授業に戻らせたり、いつも通りに帰宅
- いつもと違う場合は、保護者に連絡

学校やクラスでの対応方法や決まり事などは、こちらにご記入ください

てんかん info

＼ いっしょに知ろう ／

教職員向けのページはこちら

[学校での対応]



ユーシービージャパン株式会社